

学校名	丹波市立 柏原中学校
-----	------------

○目標・方針					
中期的な学校運営の目標・方針			本年度の重点目標		
学校教育目標 『確かな学力を備え、自主的・主体的に行動する、心身ともに豊でたくましい生徒の育成』 めざす学校像 ①わかる授業、生徒が意欲的に取り組む授業を創造し、確かな学力を生徒に保証する学校 ②学びに必要な環境が整い、総合的に生徒を成長させることができる力のある学校 ③温かい人間関係や居場所づくりに努め、生徒の活動を保証する活力のある学校 めざす生徒像 ①基礎的な知識を有し、確かな学力を身につけようと意欲的に学ぶ生徒 ②豊かな感性と思いやりをもった生徒 ③よい生活習慣を身につけ、たくましい体をもった生徒			①確かな学力を生徒に保証する授業の創造 ②豊かな感性と思いやりを育む教育の充実 ③自主的・主体的に活動する精神を育む生徒指導の充実 ④自らの生き方を考えさせる進路指導の充実 ⑤命と健康を守る健康安全教育の充実 ⑥特別支援教育の充実と関係機関との連携		
○自己評価					
領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策	自己評価の各観点に対する評価
学校運営	生徒指導	基本的な生活習慣の徹底	B	<b>目標</b> ①挨拶②時間厳守③清掃活動の徹底を具体的な重点目標にあげ、基本的な習慣を身につけさせる。 <b>成果</b> ・全職員による毎日の継続した取り組みによって、遅刻してくる生徒はほとんどなく、生徒の意識は高まったように思われる。 ・一般的な基本的な生活習慣は安定しており、生徒の生活態度も落ち着いている。 <b>課題</b> ・8割以上の生徒が交通ルール、挨拶、遅刻、頭髪や服装については、できていると回答しているが、お客様（来校者）への挨拶、給食の食べ方、掃除については、できていない生徒の割合が2割以上である。 <b>対策</b> ・登下校の安全について、PTAや関係機関等と連携しながら指導を強化したい。また、H23より、荷物を荷台にくくりつけるよう指導を徹底する。	・校内での挨拶や基本的な生活習慣は身につけているようである。 ・お客様や地域の人たちへの挨拶などができていないのが残念である。 ・校内や仲間の間だけでなく、さらに、広い視野に立ち、外部に向けての姿勢や活動が求められる。
		生徒の内面を理解し、生徒との人間関係、信頼関係にもとづく指導	B	<b>目標</b> ①生活ノートを通じて、生徒理解に努める。②面接の時間を設定する。 <b>成果</b> すべての生徒に声かけを行うことは、むずかしいことではあるが教師一人一人が意識を高めてある程度は実践できているように感じられる。特に給食後の生徒とのコミュニケーションには、成果があった。 <b>課題</b> ・教師とのコミュニケーションについて、「話しやすい先生」「悩み事を相談できる先生」がいると答えた生徒の割合が、1学期から2学期にかけて減少している。 ・「相談時に、教師が親切に応じているか」について、肯定的な回答が2学期の方が減少しており、その傾向は女子に強く出ている。 <b>対策</b> ・教師は生徒にできるだけ声をかけていこうと取り組んでいるが、生徒の状態や生徒の言いたいことに正対しているかを見直す必要がある。 ・カウンセリングマインド研修や組織的な指導体制の見直しを図りつつ、生徒指導力の向上を目指す。	・教師が生徒について、共感的な理解につとめていこうとする姿勢が大変評価できる。 ・そのため、生徒どうしが安心して生活を送ることができている。 ・朝の読書の時間において、教師自身が生徒と共に読書を行い、その本を紹介するなど、同じ目線でふれあひも大切である。
		教職員の資質向上	実践的指導力の向上	A	<b>目標</b> ①教科や道徳での校内授業研究を推進し、指導力の向上を図るとともに、校内をあげて学力の向上に取り組んでいこうとする意識を高める。 ②係や委員会単位でも自主的に研修を運営しようとする意識を高める。 <b>成果</b> ①校内授業研究が定着し、学力を上げるために多方面での指導方法が工夫されている。②道徳においても、学期ごとに授業研究を行い、指導力の向上に努めた。 <b>課題</b> ・これまでの実践の土台に立って、実践的指導力のどの部分に焦点を当てて研修を行うのかを共通理解して推進する必要がある。 <b>対策</b> ・一人ひとりの生徒の学習力や活動力を向上させるための集団指導、一斉指導と個別指導のあり方について、さらに深めるための研修を行う。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	指導内容・指導方法の工夫改善	A	<b>目標</b> 全教師が、生徒の学力の向上を目指して、 (i) 生徒の興味・関心や意欲を高める授業作り、 (ii) 学び合いができる授業作り、 (iii) 学力の定着に向けての取り組み、という3点を共通課題として認識し、それぞれの教科において、具体的な実践を積み上げる。 <b>成果</b> 全教師が、上記の3点を共通課題として認識し、それぞれの課題ごとに授業研究を行うことができた。 <b>課題</b> ・平成22年度の実践をもとに、授業と家庭学習を関連付けた指導や学習方法の説明を進める必要がある。 <b>対策</b> ・PTA総会等での生徒の学習面での実態と家庭学習の重要性を説明し、家庭との連携を強める。 ・学力が低位の生徒に対する学習指導や学習方法の相談に個別にきめ細かく対応できる体制を整える。	・教師全員が必ず授業研究を行うよう取り組み、熱心に授業の改善と指導の工夫を重ねている様子がわかり、大変、評価できる点である。 ・家庭学習については、生徒全員が取り組めるように宿題の出し方はもちろん、家庭での学習の仕方を指導していくなど、きめ細かな指導が、今後求められる。
	特別活動	生徒会活動の活性化	B	<b>目標</b> 日々の学校生活や行事などにおいて、生徒の主体的な活動を支援し、より良い校風をつくりあげるように指導する。 <b>成果</b> ○各行事において生徒会役員がリーダーシップを発揮する場面や機会が多くあり、積極的に活動できた。全校生徒のアンケート結果からも各行事の満足度（体育大会 8.8/10点：文化祭 8.3/10点）が非常に高く、思い出に残る行事が行えた。 ○普段の啓発活動では下校時の挨拶運動を行い、全校生徒の様子を把握することができた。また課題を見つけ改善ができるよう自主的な活動ができた。 <b>課題</b> ・行事においては、生徒たちは自主的、主体的に活動する力をつけてきている。しかし、日常的な活動（掃除や挨拶、給食等）に対する意識の高揚を図る必要がある。 <b>対策</b> ・生徒会活動は特別な活動の時にだけ行うものではなく、日常的な全ての活動につながっているという意識が持てるよう、常に生徒に対して指導する。 ・学級、学年、学校全体で集合した時などは、できる限り生徒が進行し、生徒たちの自主的な活動に対する発言が主体となるよう学校全体で取り組む。	・行事において、生徒会が中心に企画し運営している姿がうかがえた。 ・普段の生活でも、挨拶運動や風紀点検などを、生徒自らの手で行うよう指導しているのは評価できる。 ・高い自覚を持って活動できる生徒会役員等の生徒がいる反面、まだ多くの生徒が、来客や地域の方への挨拶等があまり出来ていないことが今後の課題となる。
	道徳教育	道徳の時間の指導の工夫	A	<b>目標</b> ①全ての分野において道徳的な実践力が高められるよう年間指導計画を立てる。 ②年間指導計画に基づき、主題やねらい、指導内容を明確にして心に響く教材の選択や指導過程の工夫等に努め、道徳の実践力を育てる。 ③校内研修を生かし、授業力の向上を図る。 <b>成果</b> ○生徒の実態に応じて、新しい資料を開発し、生徒の心に響くような授業の組み立てに努めた。 ○過去の資料を踏まえて内容が選定できるように、データの整理ができた。 ○道徳授業の展開等について、自然に交流できる雰囲気を作ろうと努力した。特に導入の工夫を大切にし、意欲づけをはかった。 ○学期ごとの校内研修を大切にし、よりよい授業が展開できるように努めた。 <b>課題</b> ・道徳教育の基本的な徳目や教材の意味を再度共通理解し、当たり前のことが当たり前に行えるよう指導していく必要がある。 <b>対策</b> ・道徳授業研究はこれまでも積み重ねているが、事後研修において、なれ合い的な評価や討議にならないよう、研修の在り方を考える。	・生徒の実態や発達段階を考慮しながら、仲間づくりや平和など、実に幅広い範囲について学習している。また、3年間を通じての目標を持って指導にあたっている。 ・道徳の時間において、導入の方法や教材など、生徒の興味関心を引きつけながら取り組んでいる様子がよくわかる。 ・普段の生活での実践が出来るように、更に指導を深めていく必要がある。

課題教育	進路指導	主体的な進路選択能力の育成	B	<p><b>目標</b> ○主体的に進路を決定できるように、普段から進路に関心を持たせ、進路掲示板や学級掲示等を有効に活用しながら進路情報を発信し、オープンハイスクール等にも積極的な参加を呼びかけ、高校説明会も実施する。</p> <p>○希望調査をもとに一人一人に合った丁寧な進路指導に心がける。</p> <p>○進路実現のため、過去問題の実施、計画的に学習できるような工夫をする。</p> <p><b>成果</b> ○丁寧な面接指導を実施し、本番に備えることができた。</p> <p>○普段から進路に関心を持たせ、進路掲示板や学級掲示等を有効に活用した。</p> <p>○オープンハイスクール等にも多数生徒が参加した。</p> <p>○高校説明会を実施し、進路決定に向けて意欲と関心を喚起した。</p> <p>○希望調査をもとに丁寧な進路指導に心がけた。</p> <p>○過去3年間の入試問題を実施することができた。</p> <p><b>課題</b> ・3年間の生徒の発達段階に配慮しつつ、各学年で押さえるべき内容を明確に共通理解し、学校としての進路指導の体制を充実するよう推進する必要がある。</p> <p><b>対策</b> ・進路指導の内容を精選し、学年間の情報交換を密にしながら指導を積み上げる。</p> <p>・各学年に進路指導に関する掲示板を設置し、上級学年の動きが下学年にも分かるよう、配慮する。</p>	<p>・1年生から自分を見つめ、2年生ではトライやるウィークの取組を中心に、3年間を通しての進路指導が展開されている。とても重要なことだ。</p> <p>今後とも、3年生だけでなく、中学生生活全体を通しての進路指導の取組が必要である。</p> <p>・進路選択に必要な学力の向上に向けても、よりきめ細かな指導が求められる。</p>
	※領域（3領域）	学校運営、教育課程、課題教育			自己評価の実施方法についての評価

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	進路指導、特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

・学校評議員会委員会に対して、1回目の会合で学校自己評価の手順について説明し、評価する観点についても提示したことは良かった。

・2回にわたる生徒へのアンケートと保護者アンケート、教職員へのアンケート結果をもとに、分かりやすく客観的な自己評価がなされていることは良いと思う。

・今後はアンケートの内容と自己評価項目との整合性について検討する必要がある。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ①中期的な学校目標の設定については、その方向性が妥当なものであると考える。
- ②これまでの学校教育目標と取組の方向性を踏まえつつ、次年度は教職員と生徒にかかわる「行動原則としてのスローガン」を掲げて、学校の教育活動がさらに活性化する方法を考える。
- ③学力の向上については、校内研修の活性化とともに、家庭学習習慣の定着のための具体的な方策と個別の指導の在り方を検討し実施していきたい。
- ④道徳教育については、新学習指導要領の趣旨を活かしつつ、学校生活の中で「生徒が行動に現せる力」として身につく指導の展開を検討する。
- ⑤特別支援教育の基本的な考え方を周知徹底し、学校教育の重点項目として位置付けて教育活動を展開したい。
- ⑥正確で深い生徒理解にもとづいた生徒指導の組織的かつ計画的な展開を行うとともに、不登校生徒を出さない取組を進める。
- ⑦学校評価の手順や評価項目について検証と検討を加え、PDCAのサイクルがさらに機能するような取組を進める。

平成 23年 3月 7日

学校名 丹波市立柏原中学校

校長名 東 明 彦 